

※申請者名：株式会社明野九州屋ファーム、品目：もも、ぶどう

1. 輸出における現状と課題

<現状>

平成29年にシンガポールのバイヤーとのつながりで、野菜の輸出を始めたことをきっかけに、平成30年からもも、ぶどうの輸出を実施。

主なターゲット国は香港、タイ、シンガポールであり、連携する輸出事業者から現地ニーズを得ながら輸出に取り組んでいる。

- 香港：化粧箱に入った高品質な果実が人気。
産地間競争が激しく、差別化が必要。
- タイ：経済成長が著しく、今後の輸出先国として期待。
検疫条件が厳しく、残留農薬基準値等の対応が必要。
- シンガポール：検疫条件が比較的緩く、輸出しやすい地域。
経済成長も著しく、輸出先国として有望。

<課題>

①輸出向け果実の安定的な確保

契約農家が生産したもも・ぶどうを取り扱っているが、価格の面で折り合いがつかず数量が確保出来ない場面や、急な注文に対応出来ない場面が生じることがある。

②効率的な集荷・選果体制の構築

生産園地から選果こん包施設までの距離があり、果実の収穫から輸出までのタイムラグが大きい状況である。

③新たな輸出先国の開拓

近年は香港のみの輸出となっているが、輸出拡大に向け他の国や地域への輸出も検討が必要である。

④等階級区分の明確化

産地により等級区分が異なり、複雑でわかりにくい。また、同等の等級でも品質にばらつきがある場合もあり、現地バイヤーが対応に苦慮する場面がある。

2. 輸出事業計画の取組内容

①出荷数量の確保

契約農家を拡大し、安定した数量を確保する。

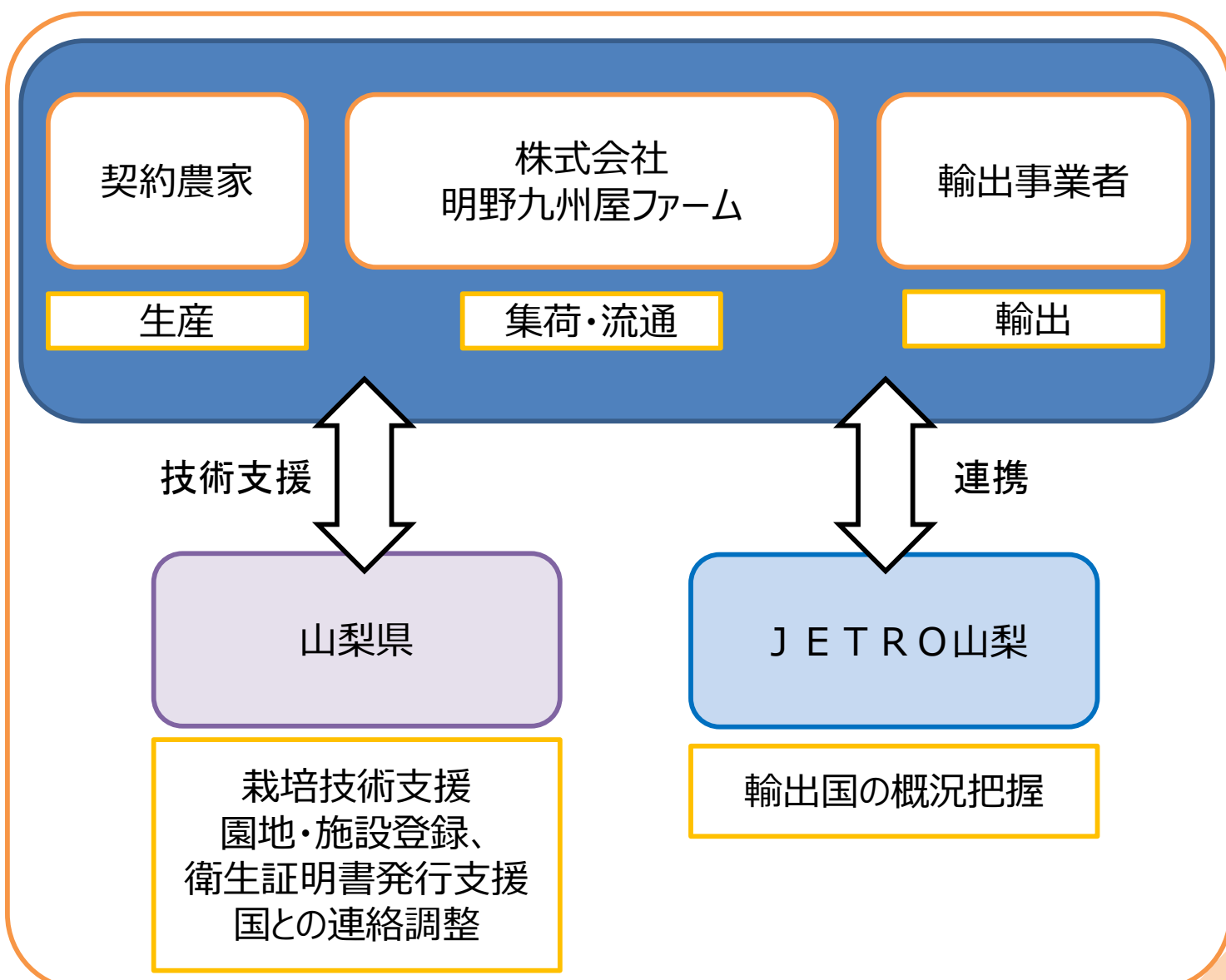
②効率的な集出荷体制の構築

生産園地の近くに集荷・選果・こん包を行う拠点を設置し、効率的な集出荷体制を構築する。

③独自出荷規格の確立

現地ニーズを反映した当社独自の出荷規格を確立し、等階級の整理と規格に応じた品質の平準化を図る。

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



4. 輸出目標額

【もも】

	現状（令和3年度）	目標（令和7年度）
輸出額（円）	178,320	1,350,000
輸出量（kg）	110	1,350
輸出先国	香港	香港、タイ、シンガポール

【ぶどう】

	現状（令和3年度）	目標（令和7年度）
輸出額（円）	0	150,000
輸出量（kg）	0	150
輸出先国	-	香港、タイ、シンガポール